

●一般演題

植込み型除細動器(ICD)における運転免許制限への取り組み

戸田中央総合病院臨床工学科 石田 雄作・久保田 涼・向笠 良宏
齊藤 圭哉・野尻 克人・齊藤 賢和
菅谷 大輔・内野 敬・君島 秀幸
戸田中央総合病院心臓血管センター内科 竹中 創・上野 明彦・湯原 幹夫
内山 隆史

1 現 状

植込み型除細動器(以下：ICD)は薬物コントロール不能な致死的不整脈に対して積極的に用いられている治療方法であり、近年、植込み件数は増加傾向にある。しかし、植込みを施行するにあたり種々の合併症を併発すること、ICD植込み後は身体的活動制限があることもあり、植込み前には医師によるインフォームドコンセント(以下：IC)が重要になっている。当院においては医師がICを術前に行っているが、説明内容が多岐にわたってしまうことで、患者によっては内容を忘れるなどの問題点が生じている。

2 当院における患者教育

当院では植込み前に医師より植込みの必要性、方法、危険性などのICを行っている。また、植込み後には家族同席のもとで看護師、臨床工学技士より患者教育を行っている。その際には当院で作成したデバイスチェックリスト(図1)を用いて説明を行うことで説明項目の統一化を図っている。しかし、運転免許申請に関しては患者自身に任せているため、自動車運転に不透明な部分が多々あった。

そこで、今回運転免許関連に関する調査を行ったので報告する。

3 方 法

平成29年9月に運転制限に関するステートメントが更新されたことを期に、ステートメント更新以前より当院でフォローしているICD植込み患者に対して、定期検査受診時に運転の有無、免許申請の有無を確認した。運転を行っている患者に対しては独自に作成したポスター(図2)を用いて再度説明を行った。

4 結 果

ステートメント更新以前より当院でフォローしているICD植込み患者70人のうち、平成29年9月から平成30年9月までの間に定期検査を受診した患者は62人であった。

そのうち、運転を行っていた患者は26人で、その中で免許申請をしている患者は12人(46%)であった(図3)。

5 考 察

植込み型デバイスには植え込んだ時点から日常生活において一定の活動制限を生じる。ICDにおいては運転制限が課せられ、それを守らなければ、法的に罰せられるというリスクも伴う。医療者側としてはそれに対する説明責任が問われることもある。

デバイス挿入患者チェックリスト

① 入院時チェック
患者氏名：菅原記録テスト 11 ID: 0009202185
疾患名：MRSA敗血症 入院日： 術日：

a. 患者理解度チェック
患者の理解度 あり ・ なし 家族等の同意の必要性 あり ・ なし

b. 患者情報

生活環境 (ex) 介護施設入居の家族や同居人、病院など日常生活など
家族構成 (ex) 妻と長女と孫1人で同居している。離れ時料理をする。Bではない。
生活様式 (ex) 自宅付近の道の有線や無線の散歩、散歩、自転車、車など 自宅2階建、自営2階、自転車、車、バイク旅行を運転する。
趣味 (ex) 剣を磨き動かすスポーツ(水泳・ゴルフなど)や園芸、バイク等
仕事 (ex) 消防団員の仕事や警備関連の強い職種かどうかなど
運転、以前、車の運転手をしていただいていた免許所持有。

1weekチェック日 2018.11.24 説明日 2018.11.24

★ デバイス設定変更					その他の備考
種類	ICD	モード	ICD	モード	
種類	CR	MR	MR	MR	

② デバイス植え込み後チェック

☆ チェックは ○ or △ or × で記入

○ → 患者もしくは家族に対して説明を行い、理解が得られた場合
△ → 患者もしくは家族に対して説明を行い、理解が得られなかった場合、又は説明を行えなかった場合
× → 患者もしくは家族に対して説明の必要がない場合

看護関連		日常生活関連	
項目	Check	項目	Check
1 解任前説明について	○	1 日常生活 (ペースメーカーに不具合が生じた場合)	○
2 解任前説明 (看護士による)	○	2 運転免許 - 申請書	○
3 入院中に説明	○	3 運転免許 - 申請書	○
デバイス関連		日常生活関連	
項目	Check	項目	Check
1 基礎知識・手術後について	○	4 日常生活 (ペースメーカーに不具合が生じた場合)	○
2 デバイス関連 (ペースメーカー・ICD等)	○	5 日常生活 (ペースメーカーに不具合が生じた場合)	○
3 手術・リハビリの役割	○	6 日常生活 (ペースメーカーに不具合が生じた場合)	○
4 電池寿命	○	7 日常生活 (ペースメーカーに不具合が生じた場合)	○
遠隔モニタリング関連		付属品・書類関連	
項目	Check	項目	Check
1 遠隔モニタリングに関する説明及び配布	○	1 申請書及びカードの郵送及び配布	○
2 遠隔モニタリングの配布	○	2 申請書及びカードの郵送及び配布	○
3 セッティング	○	3 申請書及びカードの郵送及び配布	○
4 使用法 (遠隔モニタリング)	○	4 申請書及びカードの郵送及び配布	○
5 コミについて	○	5 申請書及びカードの郵送及び配布	○
PM外装関連		付属品・書類関連	
項目	Check	項目	Check
1 外装説明について	○	1 申請書及びカードの郵送及び配布	○
2 外装アタッチメントについて (遠隔モニタリング)	○	2 申請書及びカードの郵送及び配布	○
3 ペースメーカー	○	3 申請書及びカードの郵送及び配布	○

心臓血管センター内科 循環工学科 作成
2018.7.15 改訂

図1 デバイスチェックリスト

運転免許に関する重要なお知らせ

対象 植込み型起搏器付きペースメーカー (ICD及びCRT-D)を植込まれた患者様

原則運転禁止となります

患者様ご自身で運転をされる場合、下記所定期間後
お手続きを行えば運転免許再開ができます

一次予防植込み (植込み前の不整脈発症なし)	7日間
二次予防植込み (植込み前の不整脈発症あり)	6ヶ月間
機体が*動作し、 失神を伴った場合 (*不整脈に非対応の場合は除く)	3ヶ月間
本体(電池)交換後	7日間
リード線の追加・交換後	7日間

免許再開のお手続き方法

- 各都道府県の警察署もしくは運転免許センターから
診断書様式を患者様自身で取り寄せ
- 主治医 (継続的に診察している医師)
による診断書記載
- 各都道府県の警察署もしくは
運転免許センターに診断書を提出

具体的な取り寄せ先および提出先は地域により
異なりますので、貴等の運転免許センターの
適任相談室にお問い合せ下さい。

注意事項

作動がなくても6ヶ月毎に同様の手続きが必要です

手続きを行わず自動車を運転し、不整脈が原因で事故を起こし
人を死傷させた場合、15年以下の懲役に処される可能性があります

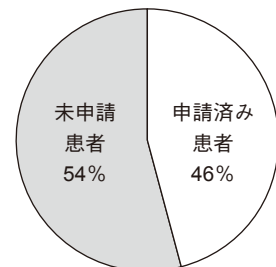


図3 免許申請の患者内訳

本説明を受け資料を受け取りました 日付 _____ 氏名 _____ 。 2017年9月1日～ 日本不整脈心臓学会ガイドラインより

図2 説明用ポスター

今回の調査で、医師が説明しているにもかかわらず、免許申請をせずに運転を続けている患者が多数見受けられた。患者からは、説明内容が多岐にわたり、説明されていても覚えられないというような意見も聞かれた。免許申請は一度行えばよいものではなく、継続的に申請をしなければいけないため、今後は術前の説明のみ

ではなく、外来受診時など定期的に声掛けをするなどの対策が必要であると考えられた。

結 語

ICD植込み患者に対しては、運転制限があることを繰り返し説明する必要がある。